

## 拓勇樹林の成り立ちと現在

### ・地質的な勇払平野全体の成り立ち

\*4万年前、支笏火山のカルデラ噴火と大量の火砕流により、  
もともと海だった石狩低地帯が陸地に

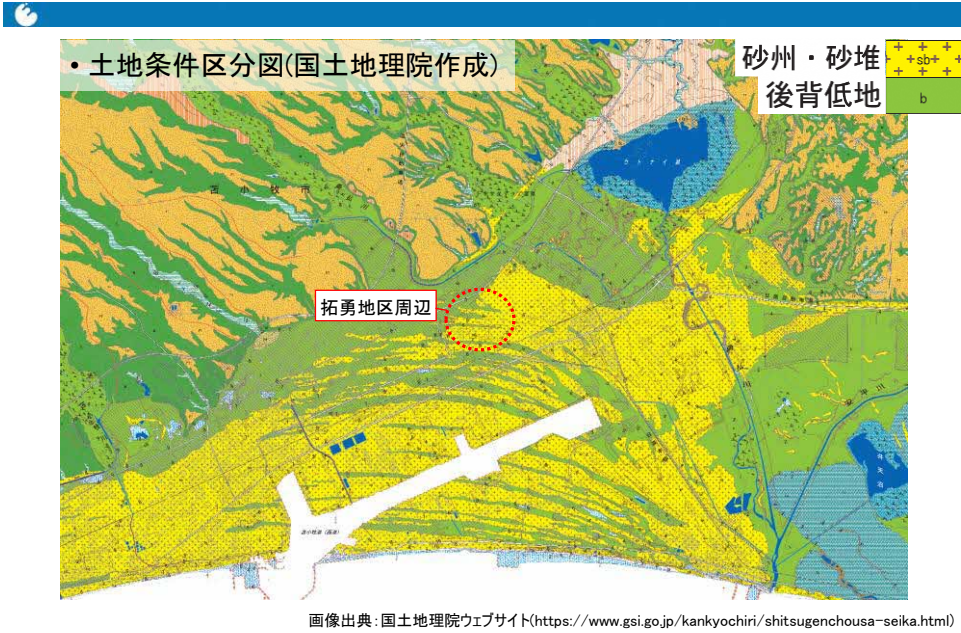
\*後支笏火山(風不死岳、恵庭岳、樽前山)からも火山灰が供給され、  
山側が降雨などで侵食され、多量の土砂が堆積し平野を形成

\*8000年前頃から地球全体が温暖期に入り、海が平野へと侵入  
(縄文海進)、美々貝塚の付近、現在より十数km内陸まで海に

\*その後の海退により、砂堆列(さたいれつ)と後背低地(こうはいていち)  
が折り重なるようにして海岸平野が発達。

\*砂堆列上は乾いた砂地でミズナラなどの広葉樹林に、  
後背低地は湿った砂泥が堆積し、湿原や湿性林に } 「勇払原野」

## 拓勇樹林の成り立ちと現在



## 拓勇樹林の成り立ちと現在



## 拓勇樹林の成り立ちと現在

### ・戦後の拓勇樹林と周辺のこれまで

年代	事象
S22(1947)～ S41(1986)年頃まで	北側は勇弘川(旧河道)流域に広がる湿原・湿性林、南側は昭和11年から開拓の始まった農地。拓勇樹林はそこに挟まれた砂堆列上の樹林(ミズナラ主体?)と砂堆間の後背低地にまたがる区域であった。
S39(1964)年	勇弘川で捷水路等の河川改修事業が開始される。
S50(1975)年頃	国道北側のエリアが工業用地として開発され、拓勇樹林隣接地はゴルフ練習場となっていた。
S55(1981)	明野川周辺の樹林(旧地区)が自然環境保全地区として指定される。
H8(1994)～ H7(1995)	土地利用等の関係で旧地区が移転の必要に迫られ、旧地区と拓勇樹林の環境調査が実施され、指定変更となった。当時の拓勇樹林は宅地が点在する樹林地に囲まれていた。
H6(1994)～ H8(1997)	勇弘川新水路の開削・付替。勇弘川は主にウトナイ湖へ流入することとなる。
H10(1998)年代頃	周辺の宅地造成・住宅建築が活発化、1996～2005年の間に周囲の宅地造成が年々進み、2009年時点でほぼ現在に近い周辺環境となった。
H13(2001)年～	拓勇樹林外縁部について幅3m程度の草刈管理が開始される(以降、現在まで継続)
H16(2004)年	台風18号により風倒被害が出る。
H20(2008)年	風倒木の処分と電線回りの剪定管理が実施される。
H21(2009)年	拓勇樹林内の間伐が実施される
H26(2014)年	明野川の河道改修があり、河畔林が皆伐される

## 拓勇樹林の成り立ちと現在



・拓勇樹林周辺の変遷(1947年10月)

戦後間もない、現在から73年前の状況。  
北側は勇弘川(旧河道)流域に広がる湿原と湿性林、南側は酪農が主体と思われる農地。拓勇樹林はそこに挟まれた海岸砂堆上の樹林(ミズナラ主体?)と後背低地であり、後背低地は一部開墾の跡もみられる。

画像出典：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス(<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do>)

## 拓勇樹林の成り立ちと現在

### ・拓勇樹林周辺の変遷(1996年9月)



現在から24年前、地区の指定変更直後の状況。  
旧地区(明野川左岸)から拓勇樹林を含む一帯が連続した樹林であったが、拓勇樹林の西側、ゴルフ練習場の南側の一部に民家や伐開された痕跡がみられる。また、国道36号線の路線が変更され、旧道との間にあった草原に工業施設が進出している。

画像出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス(<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do>)

## 拓勇樹林の成り立ちと現在

### ・拓勇樹林周辺の変遷(2018年8月)



最新の国土地理院公開航空写真(現在から2年前)。  
周辺はこの20年で一気に住宅地となった。もとは樹林だった範囲は、外縁部が修景林(そよ風と遊ぶ道)などとして樹木のみが残された。  
拓勇樹林は、その大半が戦後に手をつけられた形跡がなく、かつての姿のまま残されてきた。

画像出典: 国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス(<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do>)

## 拓勇樹林の成り立ちと現在

・現在の苦小牧市東部地域(2018年8月)



画像出典: 国土地理院 地理院地図(<https://maps.gsi.go.jp/>)

## 拓勇樹林の生物相 (8月までの現地調査結果)

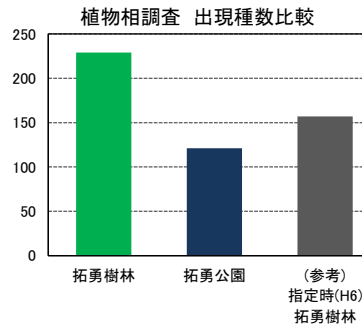
・令和2年度 現地調査の概要

分野	調査方法	対象範囲	手法詳細	時期	
植物	植物相調査	拓勇樹林、拓勇公園	・調査対象区域を踏査し、出現種を全て記録 ・重要種、大径木の生育状況、位置等を記録	春季、夏季、秋季	
	植生分布調査	拓勇樹林	・調査区域における植物群落の区分図を作成	夏季	
	方形区調査	拓勇樹林	・各植物群落を代表する方形区の群落組成を調査	夏季	
鳥類	ラインセンサス調査	拓勇樹林、拓勇公園	・設定したルート上を時速2km程度で歩行し、目視及び鳴き声により出現種を確認 ・ルート上に複数箇所の調査スポットを設定し、10分間の出現種を目視及び鳴き声により確認	繁殖期	5月、6月
				秋季	10月
				冬季	12-1月
昆虫類	一般採集 (任意採集)	拓勇樹林	・調査区域を踏査し、見つけ取り、スウィーピング、ピーティングにより昆虫類を採集、室内で分析を行う	初夏、晩夏季	
	ハイトラップ	拓勇樹林	・誘引剤を用いたトラップにより、主に地表性の昆虫類を採集、室内で分析を行う	初夏、晩夏季	
	ライトトラップ (カーテン法)	拓勇樹林	・カーテンに光を照射し、光に誘引された昆虫類を採集、室内で分析を行う	初夏、晩夏季	

## 拓勇樹林の植物

### 植物相調査の結果

- \*拓勇樹林で出現した植物は69科229種で、拓勇公園(121種)の約2倍、拓勇樹林の指定時調査(H6、157種)の約1.5倍であった。
- \*拓勇公園では出現種数の約4割が外来種だったのに対し、拓勇樹林では約8割が在来種だった。
- \*重要種として、環境省レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類に指定されているベニバナヒョウタンボクや、勇払原野を代表する種であるクロミノウグイスカグラ(通称:ハスカップ)の生育が確認された。



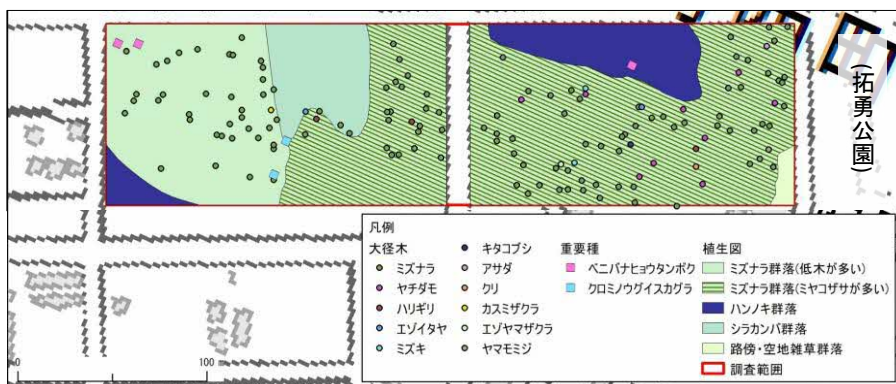
クロミノウグイスカグラ(ハスカップ)

ベニバナヒョウタンボク

## 拓勇樹林の植物

### 植生区分図、大径木調査の結果

- \*「土地条件区分図」によるかつての立地環境、「砂州・砂堆」と「後背低地」を反映した植生分布となっている。
- \*砂堆列上のミズナラ群落には樹齢100年クラスの大径木が多数分布している。



## 拓勇樹林の植物

### ・代表的群落の状況



ミズナラ群落(砂堆列上のやや乾いた森林)



ハンノキ群落(後背低地の湿性林)



ナニワズ

ミヤマエンレイソウ



ホザキシモツケ

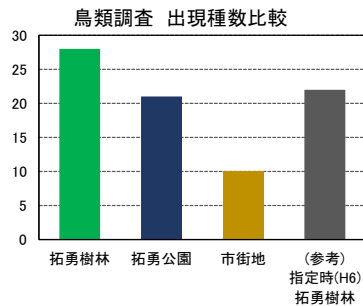
ナガボノシロワレモコウ

## 拓勇樹林の鳥類

### ・鳥類調査の結果

\*拓勇樹林で確認された鳥類は5目18科28種で、拓勇公園(21種)、市街地(10種)よりも多くの種が確認された。また、同期比較で指定時(H6)よりも多くの種が確認された。

\*優占種では、拓勇樹林ではセンダイムシクイ、シジュウカラなど森林性の種が優占するのに対し、拓勇公園ではスズメ、カワラヒワなど、より市街地に適応しやすい種が優占していた。



鳥類調査 季別優占種上位3種

2020年(R2)調査結果								(参考)1995年(H6)指定時調査結果			
拓勇樹林				拓勇公園				拓勇樹林			
5月		6月		5月		6月		5月		6月	
種名	優占度 (%)	種名	優占度 (%)	種名	優占度 (%)	種名	優占度 (%)	種名	優占度 (%)	種名	優占度 (%)
センダイムシクイ	16.4	スズメ	23.0	スズメ	28.1	スズメ	44.1	キビタキ	11.9	コムクドリ	36.6
ハシトガラス	13.1	コムクドリ	12.0	カワラヒワ	19.3	カワラヒワ	11.8	シジュウカラ	11.9	アオジ	19.8
メジロ	9.8	シジュウカラ	8.0	センダイムシクイ	10.5	コムクドリ	7.4	カワラヒワ	9.5	カワラヒワ	8.4
アオジ	9.8	ヒヨドリ	8.0	ハクセキレイ	10.5	ニューナイスズメ	7.4	ヒヨドリ	9.5		
		センダイムシクイ	8.0					コムクドリ	9.5		
								ハシトガラス	9.5		

## 拓勇樹林の鳥類

### ・拓勇樹林で確認された鳥類



センダイムシクイ



シジュウカラ



メジロ



ゴジュウカラ



コムクドリ

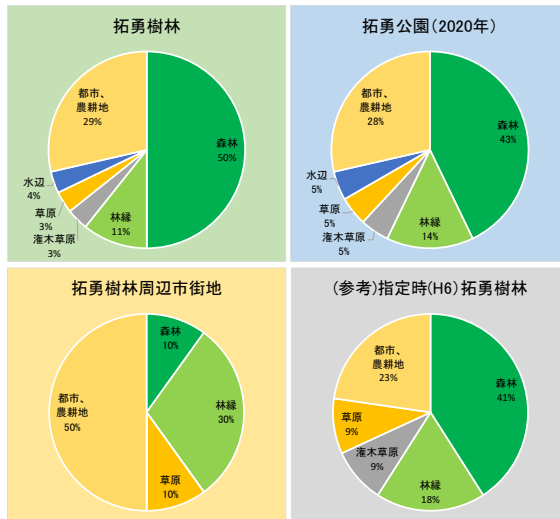


スズメ

## 拓勇樹林の鳥類

### ・調査区域別で確認された鳥類の生息環境による比較

- \*拓勇樹林では、森林性の種が出現種の半分を占める
- \*樹林帯の残る拓勇公園、周辺市街地、の順で森林性の種が占める比率は低下し、林縁性の種や都市、農耕地性の種が占める比率が増加する
- \*指定時(H6)の調査との比較では、森林性の種、都市・農耕地性の種の割合が増加し、草原性、林縁性の種は割合として低下している。





## 拓勇樹林の昆虫類

### • 昆虫類調査の結果

※昆虫類は、採集したサンプルを室内分析中のため、現地で種の同定が可能だった種について報告する

\*チョウ目の蝶類については、市街地の公園などに生息する種が多く確認された  
一方、林縁部や森林環境に生息する種も多数の個体が確認された

蝶類優占種の生息環境

種和名	生息環境
コキマダラセセリ	市街地周辺の道端の草地、低山地～山地の林道脇や林縁の草地
コチャバナセセリ	市街地の公園、里山の雑木林、山地の林道沿いの明るい林縁草地
ミスイロオナガシジミ	人里に近い平野部の雑木林や落葉広葉樹林の林縁
オオミドリシジミ	低地～山間部の落葉広葉樹林
ヘビシジミ	住宅地周辺の空き地や公園、河川の土手、外来種も含めた雑草が生える草地
ジャノメチョウ	市街地の公園、農地周辺、低地の雑木林～山地の草地
サトキマダラヒカゲ	平野部～低山地の里山環境を好み、ササが覆っている林床と林縁環境
フタスジチョウ北海道亜種	平野部の湿性草地、低山地～山地の林道沿いの湿性林縁と露岩地
ヒメウラナミジャノメ	市街地の公園、背丈の低い小草原
エゾシロチョウ	住宅街～農村部の庭や公園、原野周辺の低木林、山地の林道沿い

: 市街地の公園など人里に近い環境に生息する種。

: 林縁部など森林や林との境界に生息する種。

: 森林や林に生息する種。

## 拓勇樹林の昆虫類

### • 特徴的な生態をもつ蝶類

\*特定の動植物種や、かつての勇払原野の植生が残る拓勇樹林に依存する種として、下記の種が確認された

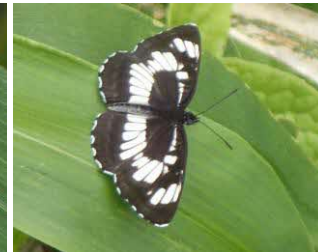
種和名	生態他
ゴマシジミ北海道・東北亜種	ナガボノシロワレモコウが生える火山性草原や岩礫地、湿地帯に生息する。 幼虫はクシケアリの巢内で成長するため、同所にクシケアリが生息している必要がある。
ゴイシジミ	平野部や低山地のササが生い茂る疎林に生息する。 純肉食性でササの葉裏に寄生するササコナフキツノアブラムシなどを食餌する。
フタスジチョウ北海道亜種	平野部の湿性草地や低山地～山地の林道沿いの湿性林縁や露岩地などに生息する。



ゴマシジミ北海道・東北亜種



ゴイシジミ



フタスジチョウ北海道亜種

## 拓勇樹林の昆虫類

### ・重要種、森林性の代表種

\*環境省レッドリスト、北海道レッドリストに記載される下記の昆虫類が確認された。

No.	目和名	科和名	種和名	学名	環境省レッドリスト	北海道レッドリスト
1	チョウ	シジミチョウ	ゴマシジミ北海道・東北亜種	<i>Phengaris teleius ogumae</i>	準絶滅危惧 (NT)	留意 (N)
2	ハチ	アリ	ツノアカヤマアリ	<i>Formica fukaii</i>	情報不足 (DD)	

\*指定時調査(H6)で森林性の代表種とされた14種のうち、コクワガタ、ミヤマクワガタ、ノコギリカミキリなど7種が現地調査の時点で確認された。今後、室内分析の進捗により、森林性代表種の本調査による確認は増える可能性が高い。



コクワガタ



ミヤマクワガタ



ノコギリカミキリ

## 拓勇樹林について(まとめ)

### ・「かつての勇払原野」がそのまま残された貴重な樹林

\*砂堆列と後背低地が折り重なるように広がっていた、「かつての勇払原野」が

ほぼそのまま残された林相

\*市街地では生息、生育が困難な動植物が今も残る、貴重な「ビオトープ」

\*開拓初期に建立された拓勇神社とともに、不伐のまま拓勇地区の発展を

見守ってきた「鎮守の森」

### ・人の社会から隔絶された樹林

\*不法投棄、植木や刈草の遺棄、

誰も拾わない(拾えない?)



開花まで10年かかるミヤマエンレイソウ